

新編水滸畫傳

六編

四

21
875
54



門
第
卷
195
54

新編水滸畫傳卷之五拾に

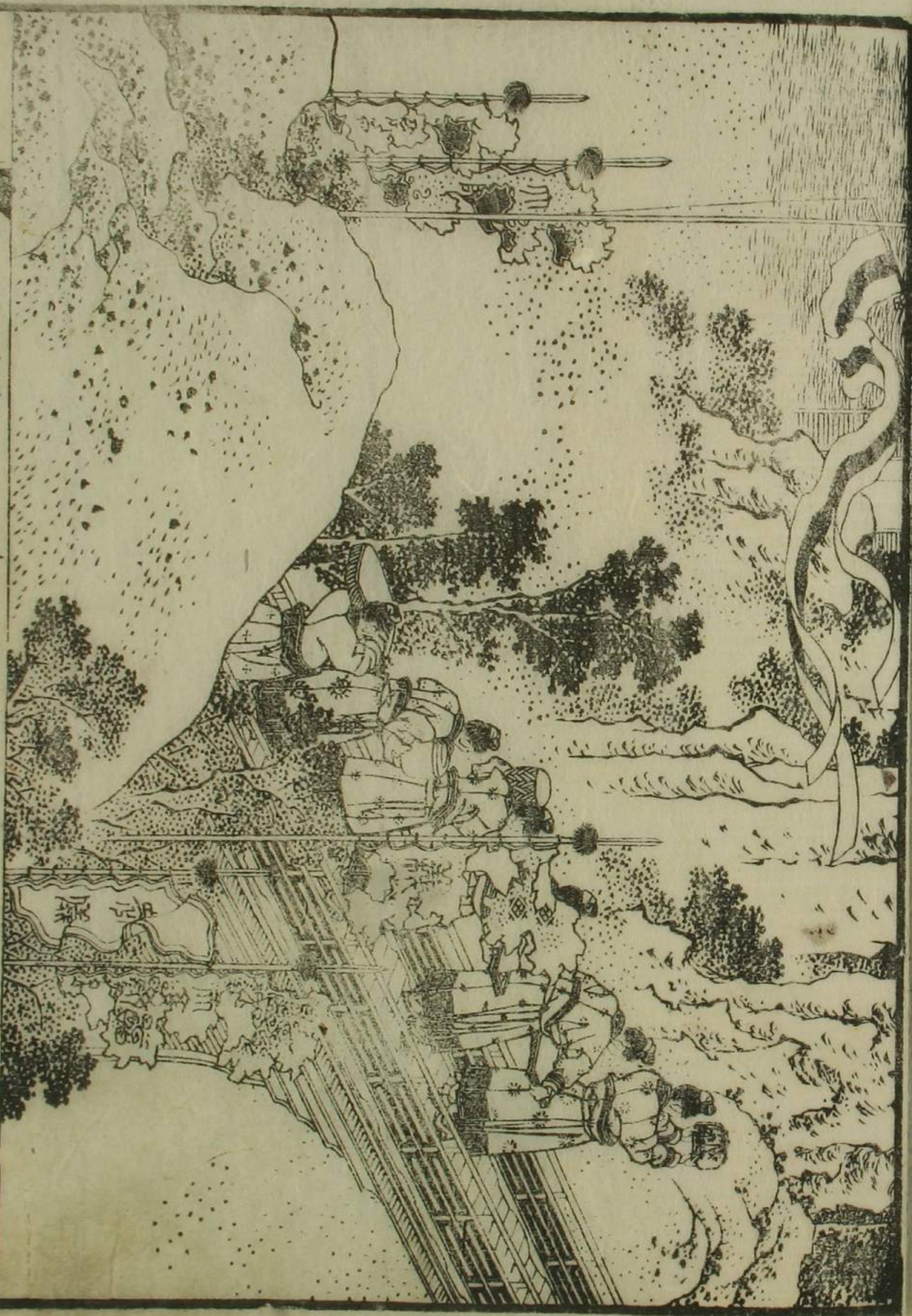
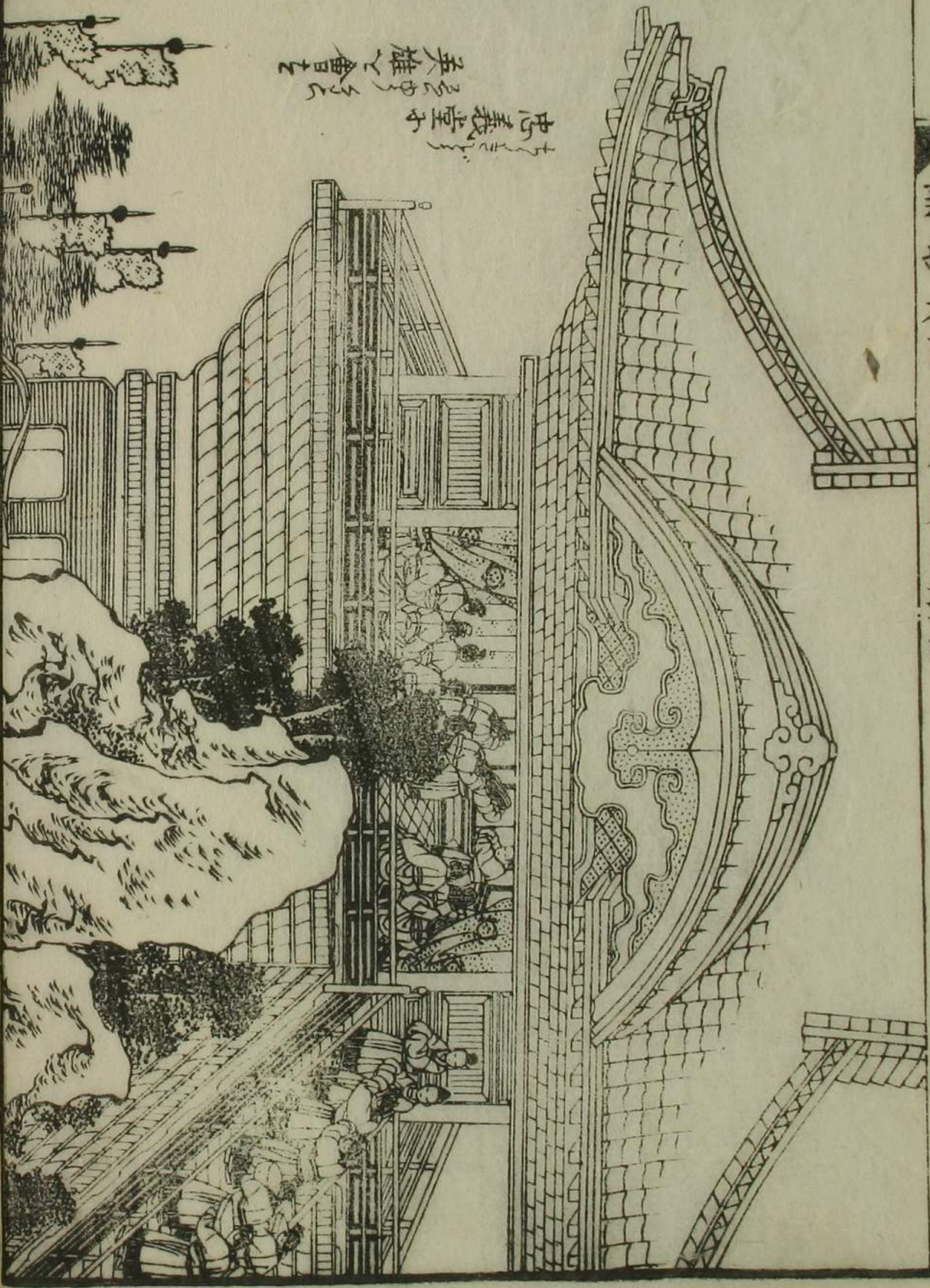
東武 高井蘭山翁 譯編

明治三十二年
十月十日
講求



○宋公明君天に索詔と擒す
 呼延灼黄佐との戦已に十餘合に及ぶに。呼延灼鞭と揮て黄佐
 とるより下に抄落しなれど。宋公明意に強ちと馳て。黄佐孤救せらる。
 冥傍これと見て大小振び大小の三軍をめて一箇不攻させらるに。呼延
 灼これと侮て云將軍傑て去退し。中よとさるれ。彼異用は廣く計に
 富しとるれが。いさる奸計と役しんも知ぶ。先是より引回し
 中と云られば冥傍は云に復し。意に去と收めて本陣に引致す。物の
 と重ひて呼延灼と款待冥傍彼黄佐が来歴と向られが。呼延灼善て
 云彼結三山黄佐の系朝廷の官職と交し者なりしを。昔日青州小

新編水滸畫傳卷之五拾



弛約たり。試み於る際系しる友軍を其數を認るべ。宋江已下
 張如と云合しと山跡に上りる。東方漸明なり。已而諸將
 於忠義堂の右小坐せり。一軍卒於て突務宣贊和思文
 ホ三人を引出し宋江を見て慌しく堂を去り、執自三人が解の
 索を割解先突務を投けて堂上小坐せしめ、宋江懇懇に抱せ
 るして云る。素く亡命の狂徒。將軍の虎威を犯し罪を極る
 以て伏して死すべし。これと免し又突務は祥とて慌忙に乳を
 還しる。細に呼吸灼も又突務を抱して云。素向小號令を
 將軍を解さ。遂に計に陥しをせざる罪。討に決まなり。仰に實者
 たり。又と恭しく中らば突務の中に入れと感し。暗小右小
 列府しる豪傑せとる。に。い。う。皆。一。張。高。子。の。勇。士。さ。し。ん

と。素。え。威。風。凛。嚴。と。て。義。氣。沈。々。之。以。時。突。務。取。と。回。し。宣。贊。和
 思。文。又。人。小。對。し。と。云。我。們。已。に。裸。體。の。恥。を。蒙。り。上。の。縱。ひ。一。命。を
 饒。さ。る。も。何。の。面。目。を。て。り。再。び。取。り。回。さん。や。あ。う。じ。一。刻。も。子。く。殺
 されん。い。と。と。三人等し。宋江小答く。一死を乞ふに。宋江大不
 驚き。云。將軍。何。も。多。け。の。言。と。の。多。し。や。備。未。と。弄。む。は。ぞ。ん。ん。に
 我。は。山。跡。に。る。く。後。に。大。義。を。信。び。日。く。天。下。暫。て。乃。と。行。い。ま。へ。
 又。素。く。が。鄙。穢。を。嫌。ひ。由。ひ。て。出。奔。回。心。小。め。く。ぞ。ん。ん。素。今。人。と。信。じ
 將軍。と。取。り。送。せ。を。免。し。突。務。嘆。し。と。云。る。は。天。下。の。人。奉。て。宋
 君。の。清。徳。を。稱。し。る。が。果。し。て。信。ず。る。は。素。く。敢。あ。り。と。又。奔。り。げ。と
 く。國。め。れ。ど。も。投。げ。と。し。宋。君。い。ふ。く。我。們。を。山。跡。小。留。め。あ。り。辱。し。く。快
 下に在て。誓。鈍。の。力。と。盡。す。と。し。宋。江。は。云。と。言。て。大。小。捉。び。取。て。酒。宴。と

平地と爲りして。更に坑を掘りて。聖日城をせん。宋江が軍を
率て各處を攻めたり。我亦出て戦んとす。宋江もなりなり。宋江は索超を
三百の軍を以て。城を不弛お。遂に一戦を始む。宋江が人馬大
小混乱して。八面に奔る。宋江は水軍の大將李俊強明。諸将を
索超を迎へ。戦ひがう二三合して。李俊強明一日に逃る。索超大不
慮。追來る。彼友人の死。憤り。索超を嫌ひ。陥坑の内に入り
けり。横に切きて。山の下の洞間に逃入る。索超お續て。追蒐
ぬ。山の背後より。炮の勢。雲と爲り。陥坑の蓋。忽ち崩れ。宋江は
むべし。索超は入り。坑の内に陥入る。左右の伏兵。並び。遂に
索超を捕ら。宋江が宋江へ。引渡す。是れより。宋江が友軍を
大いに強さ。是れ皆城中。小逃回て。梁中書に。形を報し。梁中

書は。恰も。室を失ふ。を地として。且。只。城を。堅を。以て。し。め。再び。出さ
ず。お。て。る。り。り。

○托塔天王 姜中丞と顯也

これ。宋江の。ま。と。收めて。本陣に。回り。これ。徳の。仗。ま。せ。索超を。拖て
帳。前。小。坐。り。し。と。宋江。是。と。見。て。自。ら。郷。の。索。と。割。解。て。帳。前。小。坐。せ。り。
再三。搖。諭。し。て。宋江。山。跡。の。豪。傑。也。大半。は。胡。廷。の。友。賊。と。又。天。祿。を
食。し。ま。さ。れ。せ。今。上。皇。帝。明。さ。す。と。奸。臣。志。を。始。て。佞。人。權。を。以。て
妾。に。天下。の。民。を。傷。ふ。我。等。と。避。て。梁山。泊。に。引。籠。り。天。に。誓。て。乃
と。乃。の。も。君。將。軍。我。と。弄。か。む。ん。ん。心。と。同。し。り。力。を。併。せて。共。に。大
義。に。奮。り。我。一。点。の。吳。心。を。存。せ。ば。と。只。管。詞。と。そ。し。て。誅。し。つ。べ。
索超。は。宋江。の。徳。を。感。し。遂。に。降。参。し。り。り。宋江。は。具。用。斜。さ。す。べ

大悦し。は夜に佳宴と具て索超と答意翌日又滅と破らん。と高嶽
 一連に數日痛く攻し。直正落べし。振もえざりなる間宋は
 憂悶し。帳中に疲れ半睡り。忽ち冷風。綱々として。寒氣人
 と。驚ひし。宋江怪やと。取を捲て。傍を見る。小。托塔天王。晁蓋が
 冥魂現れぬ。宋江小示し。云。宋江。汝は。山陰に。臥せ。宋江
 是と。言て。恭し。跪て。云。晁天王。今。これ。冥魂の。現れ。ぬ。宋江
 家の一族と。亡さる。故。や。ん。宋。晝。晝。晁。天王の。仇。を。報。ん。この。と。を
 責。ふ。り。け。ん。と。安。ん。せ。る。如。し。頃。日。又。不。意。の。難。を。出。來。し。と。已。て。と
 ぬ。軍。を。と。死。し。初。寸。暇。小。乏。さ。た。久。し。く。冥。魂。を。も。祭。祀。せ。ん。り
 ぬ。伏。して。罪。を。乞。ひ。ひ。罪。を。免。し。ぬ。晁。蓋。が。云。我。今。は。に。來。る。の。事。申。す。の
 為。め。の。故。也。是。下。不。百。日。血。光。の。災。わ。れ。ぬ。只。是。を。若。ん。が。為。ぬ。如。南。の。地。の

冥。能。これ。と。治。す。べ。り。ん。子。を。と。收。め。て。為。陣。也。是。第一。の上。計。と
 教。へ。て。遂。に。化。失。し。ぬ。宋。江。大。哭。し。今。又。一。遭。刑。と。現。し。申。ひ。て。我。思。ひ
 と。省。し。ぬ。後。と。後。と。募。り。て。走。り。出。ん。と。せ。し。時。忽。然。と。して。睡。醒。り。ぬ。是
 別。南。柯。の。一。夢。之。宋。江。大。小。孩。を。別。兵。用。と。得。て。晝。の。晝。車。一。く。行。り。て。石。山
 いろ。と。同。り。に。異。用。が。云。晁。天王。已。に。冥。と。現。し。申。上。の。疑。ひ。申。す。と。申。ん
 今。中。冬。の。時。か。お。て。天。多。く。地。凍。へ。軍。を。久。し。く。也。申。す。不。可。に。持。つ
 先。山。陣。に。回。り。て。冬。を。と。し。ま。と。迎。へ。春。消。氷。解。る。ゆ。に。再。び。去。り
 と。起。し。て。け。城。を。攻。べ。し。これ。を。上。計。す。ん。宋。江。が。云。軍。師。の。云。汝。も。可。と
 以。て。只。恨。く。盧。員。外。石。秀。鏢。線。の。肉。に。在。て。只。我。を。救。ひ。む。り。と
 侍。ら。ん。に。我。を。敵。陣。に。及。ぶ。梁。中。書。被。あ。人。を。殺。す。べ。し。事。已。に。支。那
 小。出。ぬ。と。評。後。未。だ。一。交。で。さ。る。如。小。聖。日。宋。江。取。痛。ま。す。禁。が。く。し。て。

熱發しられ。後大如大不該。さき等辨いふと。個ひらる。宋江が背の上。小
 物生し。毒を包し。六。異用。これと見え。以て物物。癰ふ。の。どん。ど。別
 疔。う。ん。病。急に。療治。を。加へ。ん。ど。中。し。さ。大。事。し。め。し。と。も。種。く
 医療。を。そ。し。れ。ど。も。更。に。強。な。り。時。小。張。順。を。出。て。云。ら。る。は。未
 昔日。得。陽。の。小。在。一。時。老。母。疔。を。病。り。ゆ。る。未。百。某。を。及。し。療。治
 と。加。へ。一。時。若。て。強。な。り。男。知。れ。後。建。康。府。より。安。道。全。と。戸。外。科
 と。治。て。療。治。を。教。し。た。彼。人。只。一。點。の。膏。某。を。用。ひ。最。易。く。瘡
 し。ぬ。宋。君。の。以。病。若。安。道。全。と。治。て。療。治。を。さ。し。ぬ。立。知。不。驗。な。り。れ
 其。以。知。より。彼。地。へ。の。路。太。遠。り。れ。ば。不。速。に。あり。と。し。あ。れ。ば。未。連。夜。不
 馳。て。彼。人。と。治。ま。り。可。き。ん。や。異。用。え。れ。と。夢。て。云。ら。る。宋。君。の。後。以
 鬼。天。主。の。宣。ひ。し。江。南。の。地。の。吳。星。被。え。れ。と。治。ら。べ。さ。し。の。言。ひ。正。し。く

以安乃全不慮するの。彼。有。ん。若。以。人。と。治。て。療。治。せ。り。ぬ。以。病。之
 知。不。瘡。ん。と。何。の。疑。う。か。ん。宋。江。夢。て。云。ふ。小。腹。一。刺。張。順。小。對
 して。云。汝。り。い。み。く。そ。人。の。う。べ。ま。ぎ。彼。地。不。馳。て。誘。引。し。速。小。我。一
 命。を。救。ふ。と。修。儀。を。ぞ。命。と。ら。る。以。時。異。用。一。百。支。の。黃。金。を。以。て
 安。乃。全。へ。の。謝。礼。と。し。て。又。又。十。支。の。白。銀。を。持。て。張。順。に。務。費。と。し。別
 是。と。張。順。不。与。へ。て。云。汝。今。日。發。足。し。不。く。彼。地。小。懸。さ。宣。し。く。安。乃
 全。と。治。て。由。に。梁山。泊。不。ゆ。り。し。我。今。三。軍。を。收。め。て。破。跡。を。べ。り。ん。山
 跡。小。て。安。乃。全。に。遇。べ。し。と。妻。細。具。を。令。と。ら。れ。ば。張。順。一。く。外。堂
 一。遂。に。宋。江。に。列。ね。て。即日。陳。を。出。東。と。奉。て。を。奔。以。扭。異。用。ハ
 三。軍。令。と。三。軍。に。傳。へ。て。破。跡。の。利。を。以。て。償。し。於。て。宋。江。と。轎。に。乘。り。ぬ
 一。夜。陳。と。拂。て。梁山。泊。へ。と。引。退。く。賊。を。放。て。款。の。回。り。と。見。ら。る。

其。向に伏乞の計小申て脱氣と折し一時着るれば又も詐の計あり
 んと疑て敢てこれと逃がりり。翌日梁中書徳祐と聚て宋江が夜陳
 の志をいんと同様に。哨達李成着て云。異用ハ京來詭の計多きを
 有れば。未だ分明に脱され。只城と守て出さる小如と云し。とて。
 竟小遊さることを恐るれ。宋公明と救りんと欲し。一夜と日に
 續て急ぎるに時しも冬の末うして雨降られ。別電降乃中寃て
 艱難有りし。とも。張順自ら往これ小塔。已小數千里の術を馳て。漸揚
 子江に近寄りし。が日小風大。小作り凍雲低く。雲飛く揚くとして
 一天大。小電降。電冷射。格別之。強れ。張順ハ。日江と渡らんと欲
 ひ。壺に揚子江と吊んで。死行り。小江小。て渡り。船や。と病
 り。れ。只一艘の船も見えず。張順ハ。い。わ。と。慌。又蘆葦の内を窺ひ

をむに一艘の小船を繫で兼葭渚にありし。張順刺ち呼て船
 家。本。去。船。と。我。小。借。て。び。江。と。渡。り。し。め。ふ。と。云。ら。り。に。一。人。の。漢。子。船。積
 小。並。ち。て。向。り。の。客。客。ハ。何。れ。よ。り。來。て。何。れ。小。舟。も。や。張。順。着。て。我。を。今
 び。江。と。渡。て。建。康。府。小。行。ん。と。云。る。を。我。船。賃。と。厚。く。謝。せん。と。い。は。り。し。
 渡。り。し。め。上。被。船。家。云。我。客。客。渡。り。を。せん。宛。易。れ。と。云。れ。今。日。ハ
 そ。や。紅。日。も。小。船。さ。い。を。縦。ひ。江。と。渡。り。あ。か。も。被。迎。小。舟。於。て。旅。船。を
 借。り。ん。知。る。し。先。我。船。小。舟。を。ひ。て。田。父。の。前。後。を。親。に。馳。ま。り。同
 静。小。月。明。り。ふ。り。の。方。に。好。船。と。出。し。客。客。と。渡。り。を。す。べ。り。れ。多。く
 船。賃。と。賜。ふ。べ。し。張。順。是。と。呼。て。可。なり。と。飲。兼。し。し。り。り。れ。船。家。を
 遂。に。強。引。て。送。へ。船。小。舟。一。り。再。び。蘆。葦。の。内。に。隠。ざ。り。り
 ○浪裏白跳水上に寛と報也

宋公明夢中

見天王

感格



張明是也。收て云々。我が中本で老丈に告げらん。小必を驚かさぬ。今
 ろれ。宋公明を梁山泊に放て。水軍の旗。浪裏白跳張明と云ふ。今
 宋公明を舟に。膝物生。下。疼。が。死。由。急。黄金一百両を。送。て。安道全を。傳。
 ぶんと。欲。し。る。に。宋公明。夜。中。の。勞。に。依。て。活。船。の。上。に。熟。睡。し。り。お。
 彼。人。の。船。が。来。て。縛。て。水。中。に。沈。め。ら。れ。た。宋公明。水。底。に。伏。し。て。綁。の。索。
 と。礁。に。當。て。擦。り。這。く。一。命。を。脱。れ。て。以。知。に。ぬ。り。ぬ。老。丈。り。實。に。宋。公。
 明。の。徳。を。慕。ひ。ぬ。ふ。ふ。ふ。は。一。點。の。情。を。盡。す。老。翁。が。云。は。下。課。て。
 梁山泊より来りぬ。豪傑なり。先來が牌に遇し。んと。別牌を。呼。
 ぶ。知。小。一。人。の。後。生。を。り。ぬ。張。明。と。呼。し。て。云。宋。公。明。張。公。の。大。名。
 と。呼。及。ひ。し。る。縁。り。し。て。未。だ。名。教。を。知。せ。ざ。り。ぬ。今。日。始。て。名。風。と。
 接。り。し。莫。大。の。幸。也。宋。公。明。が。姓。王。名。は。定。六。と。り。宋。又。跳。を。る。と。呼。さ。れ。

人皆譚名を施し。活閃婆王定六と称す。宋公明に從て。學。び。し。
 只。も。指。と。使。ひ。水。と。赴。し。ハ。遊。は。是。と。曉。し。ぬ。張。公。と。知。ひ。ぬ。ぬ。人。の。
 船。が。來。ぬ。系。船。て。こ。れ。と。知。れ。り。一。人。ハ。截。り。鬼。張。旺。と。呼。ぶ。又。一。人。の。
 後。は。義。亭。縣。の。民。お。て。油。裏。鯨。孫。三。と。呼。ぶ。之。ハ。友。人。者。は。以。中。
 以。排。徊。し。て。旅。人。を。悩。む。張。公。先。我。船。に。數。日。逗留。し。又。角。六。彼。
 必。ぞ。我。船。に。お。て。酒。と。活。め。ら。れ。バ。我。張。公。と。り。ぬ。は。仇。と。報。す。張。明。是。
 と。呼。て。大。小。感。謝。し。て。云。皇。下。の。慈。志。微。小。さ。れ。バ。我。は。以。知。小。數。
 日。逗留。致。さ。ば。仇。と。報。す。ら。れ。宋。公。明。の。病。と。傳。つ。と。ぬ。人。明。旦。
 建。康。城。小。入。る。安。乃。全。と。傳。て。山。陣。に。回。す。王。定。六。以。て。呼。て。再。
 ひ。留。り。別。一。套。の。衣。被。と。十。兩。の。銀。子。と。張。明。に。送。て。係。銀。と。呼。す。張。
 張。明。深。く。是。を。謝。し。翌。日。王。定。六。父。子。小。別。り。て。建。康。府。小。入。車。に。槐。槐。

の下に五て安乃全が家に入らぬに安乃全を以て子とす遇し一に
 強明懇懇おねとるに安乃全を云我久しく張公にまゐるなり
 今日ハ何ホの事あるぞ自ら語りぬや張明答て江州を捕し宋
 江と共に梁山泊に上りしと一に後り今又宋公明脊に持たせしり
 より黄金一百両と送りて先生と山陣に往んと欲し已に揚子江に
 海賊小遂小金子と奪れりといと具に告りば安乃全が云宋公明ハ尚
 世の義士有れば我山陣小行て病と療治せんハ形小ありといを頃日
 愚事死して家事と掌る者も遠く出んと危難られぬ事也
 系も亦再び山陣に拘りてとて再三哀をいれども安道全これと憐て云
 我尚宜しく商儀しとゆれば張公先憂と休む張明は

言とつて大に悦び先生の言と相なり一山の福行事のこれに
 去んや一向洞と流してやりに安乃全志の功なりと感し遂
 小飲堂しりりりり建康府二人の妓女李巧奴と云ふありりり
 容儀十分小美あり安乃全を以て睦しく往来しりり。以夜
 安乃全強明と引て李巧奴が家小居て強明と款待酒已不雨なり
 一に知小安乃全李巧奴に告て云我今晚ハ此に歌三明日ハ汝小別
 れてけ強公と共に山東の地に移るに死時ハ一月格りありりり
 餘り小再び回て汝小遇ふべきに汝自ら守り保衛して我ゆりり
 べし李巧奴これと答めて云るハ君いんぞ我と弄て遠く往りんや
 然くハ汝度の外出と休む安乃全云るハ止強公と我已に旅の
 羽衣と袂へられバ明日おく養定まじ汝公と寛け待し我一日も子



張順が智
安道全と
山陣の
道す

人殺者
安道全也



張順水底に
縛繩を解

母と殺りたる。友人の下女叫ぶんとせし。張明又刀を揮て。友人の下女をも俚に砍殺す。壺に房間の肉
お入んとせし。李巧奴未だ睡ずして。試強勃と喧嘩事やと。己の
房間の外お出さず。張明又これと砍削する。張旺の房間の内より。試光
系と暗に見え。お小窓を鑽き。壁を越して。進み入り。張明を驚かし。悔りたるを
蓋さし。わらわらり。張明これに於て。驚き沈吟し。うらり。わらわら。張明は
の襟と血に蘸して。人と殺し。うらり。安乃全と白壁の上にお分
明小書付お。謝又更の茶後に。安乃全睡と醒し。房間の内より。李
巧奴と叫ぶ。張明を驚かし。入て。安乃全と。例お。張明は
見ると。己人の屍と見え。うらり。安乃全。うらり。張明は

と呆れ。張明又粉壁の上を指さして。いさ。先生壁の上の文字
と見え。安乃全これを見て。益魂と散す。張公何ゆ。我と若し。わ
らわら。恨と。張明が。事已に。何ゆ。恨と起す。わらわら。
先生。初と。言めて。叫び。わらわら。我自。逃きて。綱と。先生の上
に。干く。又。綱と。脱んと。歎く。速に。糸と。共に。梁山泊。小
上。宋公明。の。病と。救ひ。安乃全。二つの。事。執。も。先生。の。身。不。仕。せ
る。安乃全。是。と。云。張公。已。に。此。の。罪。と。犯。す。わらわら。
わらわら。綱。ひ。必。ず。我。身。も。及。ぶ。と。云。張公。小。陸。と。梁山。泊。小。流。行
べし。と。遂に。張明。大。小。悦。で。安乃全。共。に。此。と。進
出。て。壺。に。王。定。六。が。家。に。お。り。張公。王。定。六。告。て。云。自。張。旺。は。此。と。進
出。る。も。張公。に。遇。さ。し。こ。を。惜。う。つ。れ。と。悔。り。張明。及。て。是。と。進。て。云。

汝これ悔してまゐれ我を只宋公明の爲に大事やまゐんとこそありつれ。
 何ぞ是らの仇を念ふ小掛て。自ら宋公明のことと忘れんやとあぢい
 も強うさうに。王定六不忠介面を見て忽ち躍起てさう対面を指し。張
 公俊と見定對面より来る漢子。乃張旺と名を呼ばれ。張旺は張公俊と見定て云。
 先彼を撃つ。むさうさうなれ。只彼が仇と見定て事やけしと。暗に
 窺ひり。張旺已に江邊にあり。船をさへまはせられ。王定六をさして張
 公俊と見定て假て我友人の親族と偽り。先彼と知りり。張旺が
 云。船を借んとさうば。おく客を引て来り。王定六が云。おつ。刻辱さ
 来らん。船を停て待たんと。若しお小回て張公俊に。おと若れ。
 張公俊。別安道全小對して云。去來彼船小繫て。船と殺さん。我小
 從て来り。王定六と共三人。同く江邊小降り。船に張旺が

船を漕つて三人を系し。わし。張公俊暗に船の内小入て坐し。船
 さうく。江邊小降り。時張公俊。船底破れてお湧へぞ。船が去
 來てこれと塞げと喚。張旺計と。愛小も知らぬ。船に來
 船船の内に入ん。さう。處と張公俊。速にこれと楸へ。大小罵る云。
 汝淫賊。昨日を船も我を欺て。金銀と奪ひぬ。さう。汝尚我を識
 認らぬや。張旺先と。呼て。忽ち作伏し。只揮ひ。慄くさうり。張公俊又
 同て云。昨日の後。何れ船に在さう。張旺答て云。昨日。素金銀と
 見て。欲ふ蓋記り。彼に分与へんと。思ひ。遂に我子に。けて。破殺し
 ひ。船の。豪傑。素が一命を。焼し。張公俊笑て云。汝ハ我を何等の
 者と。思ふや。我を。系。潯陽江に。ちりし。張公俊と云。若し。今ハ宋公明
 小陸の梁山泊小坐り。遍く天下小縦横して。人皆。怖む。いふ。とは。

候りも終る言に張順大少哭て流る涙の跡のどく安乃全以
 云と受て宋既飲尚痛く是よりやと同れぬ戴宗亦言て云毎日
 初より夕に毎日まで痛く苦くもよみはれぬ張順は憔悴して神思昏
 衰一危こそ尤大急之。安道全が云宋既飲果して猶痛く是れ
 言ふるは病後ち療治致さるべし我も只恨く八日限延引して
 候つてあらん戴宗が云来言ひ林冲の法をばして一日の内は八百里の
 海を舟船にて二つの甲子と股の上に湯法をゆふと云ども今二つの
 甲子と分て先生の股の上に湯一ありさんとて候く二つの甲子と
 先出して安乃全が股の上に槍り付自も又二つの甲子と用ひて云
 人曰く薬をば出戴宗又張順小對して云らるは足下を後より履
 くともありや我も先安んせと共候。一刻もあらず候と云。

已に神術の法をばして飛び走り。担張順はは村に一夜日逗留
 して後次の疲を体息し。且又王定六が来るともあらんとい候て
 居るに果して老父と共に村にありし。張順とれと接へて大少
 候び我も足下と侍候。候はぬに逗留せしと云られハ王定六父子
 候く是と謝し。又安乃全が事と官らるに張順具に告て云安乃全
 は今言ひ戴宗来て先迎へて山陣に馳用りぬ我も云来後と慕
 て急ぐしとて三人遂に比知と歩出處に梁山泊と居んでを棄れ。云
 候に戴宗の安乃全と引て飛び走り馳し。不日に梁山泊に候し
 乃知小六の法既飲候て安乃全を迎へて宋江が床の筋にあり。云
 安乃全先宋江が教と受て。其後脈を切ひ別お笑て云らるは張順飲
 必は候。こゝろふして是れ脈絆おしも急く候。血氣衰へぬといふも亦

